



昭和2年7月7日創立

世田谷区立東大原小学校

同窓会報

平成23年度 第1号
(平成23年7月発行)

発行所
世田谷区大原1-4-6
東大原小学校同窓会

発行人
宮川英子

同窓会総会が開催されました



2回生岸田さん、13回生宮川会長、58回生筧講師、新任大野校長を囲んで記念撮影



23年3月に卒業した84回生の皆さん



新人会員(84回生)代表挨拶

平成二三年年度の総会は平成二三年四月十七日(日)午後三時より母校の体育館において、斉藤耕一理事(三四回生)の司会により議事が進められました。一部では宮川会長(十三回生)の挨拶、大野忠雄校長の挨拶に次いで、新人会員(八四回生)の代表として高木彩衣さんと竹田史織さんの元気な挨拶があり、引き続き議事に入りました。議事の詳細については二頁をご覧ください。

今回の総会は、評議員、役員の変更期に当たするため新たな評議員役員の選出が行われ、新しい評議員が選出されました。そして評議員の互選により、同窓会会長には宮川英子評議員(十三回生)副会長には大村昭夫評議員(十七回生)、杉田浩評議員(二九回生)が再任されました。その後新会長の力強い決意表明があり、来賓紹介、高木照代PTA会長による来賓の代表挨拶があり、全員起立して懐かしい校歌を斉唱して総会議事を終了しました。

第二部では五人回生の筧伸浩さんがとても美しい宇宙の星々の写真を見せながら、天文学に惹かれ、大学に入りなおしてひたすら天文台への就職を考えたこと、北海道の「銀河の森天文台」で宇宙を眺めていると世界観や価値観が変わること等話をされ、時間のたつのを忘れて一同聴き入りました。

終了後は記念撮影、第三部懇親会はお酒も入り参加同窓生七七名による懐かしくも楽しい同窓会となりました。六〇年ぶりに今日再会したという同級生のグループもあり、「同窓会って素晴らしいな」「この灯を絶やしてはいけないな」と感じた懇親会でした。



左より杉田副会長、宮川会長、大村副会長、野地理事、磯監事

平成23年 定例総会議事内容

議案第1号 平成22年度事業報告

1. 会員名簿の作成及び会報の発行
 会員名簿の充実と電子データ化はかなり進んだ。現在名簿掲載人数は5870名で、卒業生の48%に相当する。また、22年度中に会費や寄付を頂いた方は総計296名であった。会報は年2回発行、3月には60歳以上の住所が判明している全会員に会報を送付して、会員の母校への関心を高めることに効果を上げた。ホームページの掲示板の書き込みも増加している。
2. 母校の教育環境の向上
 母校との連携強化、PTA、おやじの会との連携を推進した。母校の要請に応じて、テント一張を寄贈した。母校くろみ学級餅つき大会にも、つき手として協力した。同窓会文庫の運営にも学校と連絡しながら推進している。
3. 会員の福利厚生のための事業
 「学童疎開の跡を訪ねての旅」を企画実践した。親睦旅行とゴルフの会で千葉鴨川方面を訪ねた。総会後の懇親会、納涼会、忘年会を実施した。
4. その他
 同窓会会計の充実を図り、年会費の納入とご厚志を賜り、適正な支出に努めた。母校を核として地域との連携を図るため、母校入学式 運動会、学芸会、卒業式、一番街阿波踊り、おやじの会校庭キャンプ、太鼓ライブインなどに協力参加した。
 以上の報告に異議はありませんでした。

議案第2号 平成22年度決算報告

収入の部			支出の部		
	予算額	決算額		予算額	決算額
会費収入	300,000	348,000	総会費	40,000	28,830
新会員入会金	6,000	5,800			
			文具等消耗品費	100,000	86,821
			活動費	200,000	349,482
懇親会費	50,000	45,000	通信費	150,000	275,670
名簿売上		2,100	会報費	220,000	305,970
利息		193			
寄付金	350,000	550,000	振替負担費用	20,000	25,850
記念誌販売		12,000	振込用紙代		4,700
当年度合計	706,000	963,093	当年度合計	730,000	1,077,323
前年度繰越金	1,591,729	1,591,729	次年度繰越金	1,567,729	1,477,499
合計	2,297,729	2,554,822	合計	2,297,729	2,554,822

平成22年度監査報告

前期決算書類を慎重に監査した結果いずれも
 適正且つ妥当なもの認めます。
 平成23年4月1日 監事 磯 正格
 下條 由之
 山縣 武夫

議案第3号 平成23年度事業計画

1. 会員名簿の作成及び会報の発行
 未連絡の会員とのつながりを実現させる努力をする。
 会員名簿の充実と電子データ化の推進
 年2回の会報発行 未投稿者に投稿をしていただくよう努力する。
2. 母校の教育環境の向上
 母校とのコミュニケーションを更に緊密にする。具体的には各種行事へ積極的参加する。
 学校図書館内の同窓会文庫の設置運営を新校長先生のご理解を頂きながら軌道に乗せる。
3. 会員の福利厚生のための事業
 親睦旅行年2回、親睦ゴルフ2回 その他の懇親の集い

4. その他

昨年に引き続き、年会費の納入者の増加を図り、協力者のご芳志を仰ぎたい。
 そして、さらなる適正な会計の執行に努力していく。
 母校を核として地域との連携を図るため、PTA、おやじの会、地域の諸団体との連携を図り、活動を充実していく。

議案第4号 平成23年度予算案

収入の部	23年度		支出の部	23年度	
	予算額	前年度実績		予算額	前年度実績
会費収入	400,000	348,000	総会費	50,000	28,830
新会員入会金	5,000	5,800	文具等消耗品費	100,000	86,821
懇親会費	50,000	45,000	活動費	250,000	349,482
名簿売上		2,100	通信費	280,000	275,670
利息		193	会報費	300,000	305,970
寄付金	600,000	550,000	振替負担費用	30,000	25,850
記念誌販売		12,000	振込用紙代		4,700
			備品購入費		
当年度合計	1,055,000	963,093	当年度合計	1,010,000	1,077,323
前年度繰越金	1,477,499	1,591,729	次年度繰越金	1,522,499	1,477,499
合計	2,532,499	2,554,822	合計	2,532,499	2,554,822

議案第5号 新評議員の選出

平成21、22年度の役員は、今回任期満了となりましたので、会則第8条により本総会において、新評議員の選出を行いました。
 平成23、24年度の評議委員は次の通りであります。

卒業回	氏名	卒業回	氏名	卒業回	氏名
2	岸田義明	27	富安好恵	34	齋藤耕一
12	岩下秀男	29	杉田 浩	34	漆畑光一
12	吉田 昶	29	重山まこと	34	大岡雅子
13	宮川英子	29	福士木綿子	34	小山田忠
15	磯 正格	31	岩本照雄	35	関根純一
17	大村昭夫	32	小清水和子	38	山中一享
18	山縣武夫	32	宮田維久子	46	大木弘人
24	野地勝彰	33	神谷良男	47	窪田賢雄
27	臼井良男	33	梶川照矩	48	渡辺明男
27	渡辺 翠	33	中村清子	58	上原謙介
27	大竹英一	33	益井純子	副校長	大橋園子
27	足立遼三	33	土田真也		

以上いずれの議案も賛成多数で可決されました。

報告事項 新年度役員

選出された評議員の互選により、新年度の会長・副会長、理事・監事を選出しました。その結果平成23、24年度の役員には以下の方が選出されました。()内は卒業期数

会長	宮川 英子 (13回生)		
名誉会長	現任母校校長 大野 忠雄		
副会長	大村 昭夫 (17回生)	杉田 浩 (29回生)	
理事	野地 勝彰 (24回生)	臼井 良雄 (27回生)	渡辺 翠 (27回生)
	重山 まこと(29回生)	福士 木綿子(29回生)	小清水 和子(32回生)
	宮田 維久子(32回生)	神谷 良男 (33回生)	梶川 照矩 (33回生)
	益井 純子 (33回生)	土田 真也 (33回生)	齋藤 耕一 (34回生)
	大岡 雅子 (34回生)	漆畑 光一 (34回生)	関根 純一 (35回生)
	上原 謙介 (58回生)		
	大橋 園子 特別会員	東大原小学校副校長	
監事	吉田 昶 (12回生)	磯 正格 (15回生)	山縣 武夫 (18回生)
参与	岸田 義明 (2回生)	岩下 秀男 (12回生)	

平成二三年東大原小学校
同窓会総会記念講演
「望遠鏡で宇宙を旅する」
陸別町 銀河の森天文台

主任 寛 伸浩（五八回生）

最近夜空を見上げることがあります。多くの人は街の明かりであまり星の光が見えない夜空を、見上げることが少なくなりつつあるのではないのでしょうか。こうした下では、星は夜空にばらばらと輝いているといった感じでしょう。

ですが暗いところへ行くと、通常肉眼では六等星までの星が見えその数は全天でおよそ八六〇〇個にもなり、満天の星空が広がります。そしてまた、長い時間をかけて夜空を撮影すると、それまで目では見えなかった更に多くの星が、空を埋め尽くすほどに写しだされます。こうしてみていくと、夜空には本来こんなにも星があるものかと驚かされることでしょう。

星々が暗く小さく見えるのは、それらが途方もなく遠くにあるためです。例えば、地球から太陽までの距離は一億五千万キロメートル。これに対し、夜空の星々は数十、数百光年と、とても遠いのです。一光年は光が光速三〇万キロメートルで一年かけて進む距離です。これをキロメートルの単位にする
と一光年は約九兆五千億キロメートル、とまさに天文学的数字になり



反射望遠鏡「りくり」

ます。

こうしたことから、もともと地球の直径の百倍以上もある、太陽と同じように大きな夜空の星々も、その距離の遠さ故にとても小さく見えるのです。今言われているところでは観測可能な宇宙の広がりは一三七億光年とされています。そこには無数の星が広がり、私たちが見ている多くの星も、宇宙全体から見ればほんの一握りに過ぎません。宇宙とはこのように途方もなく広い世界なのです。



講演中の寛さん

今の時代、車や飛行機に乗って日本はもとより世界中を旅する時代となりました。人類はロケットを使い月へ行けるようになりましたが、その距離はおよそ三三万キロメートル。太陽系の外へはとうてい行けるものではありません。しかし望遠鏡で空を見上げれば、ロケットでも未だ到達できない距離も、地球にいながらにして旅することができます。望遠鏡は言わば一風変わった宇宙船のようなものです。レンズをのぞけば、そこには今まさに生まれつつある星々が広がる美しい星雲の姿を見ることができます。

また、あるところではこれとは逆に永い星の寿命を終え、ガスをばら撒き消えてゆく星雲の姿も空のあちこちに見えてきます。そして遙か遠方には、ひっそりと輝く数千億もの星が渦をなした、銀河の姿もいろいろな形をして

数多く見えてきます。このように遙かなる宇宙にはさまざまな天体を見ていくことができ、それはまさに宇宙を旅するような気分になります。望遠鏡によるそんな不思議な旅も面白いものです。

宇宙というとても広く広い世界を旅していくと、自分がそれまで持っていた世界観や価値観は、大きく変わっていくことでしょう。

私たちが一般的にもつ世界観は、この地球上の世界を意識したものと思われませんが、その地球も大きな宇宙から見れば、片隅に輝く小さな星のひとつにすぎません。星の世界を知らないからといって、日々の生活で困ることはありませんが、宇宙という広い世界を知った上で、日頃の世界を見返してみると、もの見方や考え方が変わってくるように思われます。今までなんて小さなことでよくよとしていたのだろう、などと……。

こうした広い世界観を持つことは、とかく狭い世界に閉じこもりがちな現代社会の多くの人にとつて、とても大切なことではないかと私は思います。

私たちの頭上には、地球上の世界を遙かに超える広大な世界が広がっていることを思いつつ、今夜再び空を見上げてみませんか。



銀河の森天文台



来賓の方々



古いアルバム展示を見る



2回生の岸田義明さんを囲んで歓談

本年四月母校の校長先生の異動がありました。お世話になった久末前校長先生、今後お世話になる大野校長先生にご挨拶を頂きました。

「同窓会のみなさまへ感謝をこめて」

砧南小学校校長 久末節子

平成十八年四月から平成二十三年五月まで東大原小学校で過ごし、この四月、区内の砧南小学校へ異動いたしました。

平成十八年の故加藤藤清光会長は、優しい表情の中に強い意志の力を感じる瞳をもった会長でした。お話の端々に、母校への強い思いが感じられました。平成十九年、二〇年は岩下秀男会長でした。岩下会長といえれば開校八〇周年「故きを温ねて」の出版です。式典当日の家庭科室でのプレゼンテーションも懐かしい思い出です。平成二一、二二年の宮川英子会長は同窓生であると同時に、東大原小学校の教員でもありました。また、私にとつては世田谷区の先輩校長でもありました。道徳地区公開講座の講師、おやじの会のイベントへの積極的な参加など行動的な会長に甘えることも多い二年間でした。

昨年度は同窓会からテントのご寄付と、同窓会文庫の創設というお話がありました。子どもたちのために継続的な支援をしたいというお申し出でした。東大原小学校の同窓生が校歌にある「よき



久末前校長先生

日本人」であり、これからも自分たちと同じ「よき日本人」を東大原で育てていきたいという強い願いをもっていらつしやることを改めて感じました。

本当にお世話になりました。東大原の五年間に感謝しつつ、砧南小のこれからに少しでも貢献したいと考えています。ありがとうございます。

よろしくお願いいたします。

東大原小学校校長 大野忠雄



大野新校長先生

四月一日に、東大原小学校第二十三代校長として着任いたしました大野忠雄と申します。どうぞよろしくお願いいたします。また、前任の久末節子校長は、同じ区内の砧南小学校への異動となりましたので、お知らせいたします。

四月一七日(日)に東大原小学校同窓会が、本校体育館にて行われました。私もお招きいただき、当日出席されたたくさんの方々の皆様と親しくお話をする機会を得ました。たくさんの方々の笑顔があふれる同窓会でありましたが、皆様のお話のあちこちから皆様が生活した当時の辛かったけれど楽しかった思い出や何よりも学校へ対する熱い思いが伝わってきました。東大原小学校での共通の学習や生活を通して、共に笑い共に涙した仲間は、どんなに時がたっても深く太い繋がりで結びついてい

るんだなど改めて感じるものでした。そして、同窓生の皆様が、母校である東大原小学校をこよなく愛し、大切に思っているんだという気持ち強く感じました。

母校である東大原小学校が、皆様の熱い思いに応えられるように今後更に発展することが、同窓生の皆様が益々東大原小学校の同窓生として安心すると共に誇りに思える瞬間なのだと思います。同窓会の皆様の期待に応えられるように、今後更に一層努力していきたいと思いを新たに致しました。

セピア色の写真

副校長 大橋園子

(東大原小学校「学校通信」第二号より)

新緑の美しいある日に上品な老婦人が東大原小学校を訪ねてこられました。婦人は昭和十年の卒業アルバムを携えていらつしやいました。中を開けばセピア色になった卒業写真が並んでいます。婦人は九〇歳に届こうかというお歳でした。母校にアルバムを預けたいという申し出です。今年、東大原は創立八四周年、卒業生は一万二二一一名になりました。

正門右には同窓会のガラスケースがあり、同窓会総会の写真や、手書きのクラス会だよりが掲示されています。

四月十七日、同窓会の定例総会が体育館で行われました。新入会員代表挨拶、新入会員集合記念撮影も行われました。今年三月、立派に成長して巣立った六年生が、久しぶりに中学一年生として初々しい姿を見せてくれました。第二部では講演「望遠鏡で宇宙を旅す

る」が企画されました。

講師は本校五八

回生の笥伸浩さんです。笥さんの実家は一番街商店街の和菓子屋さん

だそうです。現在は北海道の陸別天文台で勤務されています。宇宙から送られてきた貴重な写真をたくさん見せてくださいました。

本校同窓会は日頃から学校の教育活動にたくさんかかわってくださいます。まず現同窓会長の宮川先生は昨年度道德授業地区公開講座の講師をしていただきました。自己の半生を語っていただき、人生の師ともいえるべき感動的なお話をしていただきました。一年生とくるみ学級の「もちつき会」では、同窓会の方にもお手伝いをお願いし、おもちをついてもらいました。登校時の安全パトロールでは子どもたちと顔なじみになり挨拶を交わしています。その他、おやじの会のキャンプにはオレンジのTシャツを着て姿を見せてくださいました。また、同窓会のホームページには掲示板があります。そのほとんどに宮川先生がコメントを書かれています。人とのつながりを大切にしたい丁寧な対応にはひたすら頭が下がります。

さらに、今回の運動会で使ったテント一張りとは昨年度二月、同窓会から寄贈されたものです。軽量で組み立てが簡単になりました。また、図書館には同窓会文庫のコーナーを作り、子どもたちに読んでほしい本を毎年少しずつ



大橋副校長先生

置いてくださることになりました。図書館は土曜開放をしていますのでご覧になってください。

本校には二世帯、三世帯と通っている方がたくさんいます。まさに地域に根ざした学校といえます。同窓会の方々がかわって支えてくださっていることにあらためて感謝いたします。

私自身は父の転勤に伴い小学校は二回転校しました。入学は北区の小学校で当時千余名の児童がいました。次は千葉県の学校に転校しました。再び東京葛飾区にもどってきて卒業を迎えました。しかし入学した学校も卒業した学校も今は歴史を閉じました。

自分の心の支えを失ったような何とも淋しい思いがします。私もいつかあの老婦人のように、まだあるかもしれない千葉の学校を訪ねてみたいと思います。

子どもたちが心のよりどころ、心の故郷になるような小学校生活を送れるように、日々の教育活動を進めたいと思います。



22年度同窓会寄贈テント



同窓会文庫

同窓生の皆さん、 母校を訪れましょう。

同窓会会長 宮川英子

「同窓会なんて」という声も良く聞きます。同窓会の活動意義はなんなのでしよう。



宮川英子会長

私は会長として、また、一卒業生としてこのことを、いつも自問自答しています。

東大原小学校には昔から（少なくとも一九四〇年、昭和一五年ごろ）同窓会がありました。私が卒業して中学二年の時、母校の同窓会に出席していました。（昭和一七年四月一八日）その時、突如空襲警報が鳴って、同窓会は中止となりました。たった数機でしたが、南方空母から発進した米軍機が東京、名古屋、神戸を初空襲したのでした。当時は体育館などありませんでしたから、あの時は確か裁縫室で開かれていたと思います。

以来、戦争の激化に伴い、同窓会は開かれることはありませんでした。

昭和三五年ごろ、母校三五周年を迎えるにあたり、先輩（二回生岸田義明、六回生加藤清光、畠山保克、土田正人、日留川重雄等諸氏）が中心となって同窓会を再興しようということになりました。当時母校で教員として勤務していた私は、この再興に雑務（書記会計）を担当して推進に努力したのでした。

それから、今日まで、途切れることなく同窓会は、続いています。

歴代会長として、岸田義明、加藤清光、山中幸雄、再び加藤清光、そして岩下秀男各氏のご尽力により、総会、スポーツ大会、新年会納涼会などを開催、会報も何回か発行され、母校にもいろいろ寄与してきました。

母校への教育協力として、三五周年には記念誌発行、三六周年には新体育館完成祝いにステージ幕寄贈、五〇周年には校門脇の「岩石園」を寄贈しました。さらに四〇回生までの名簿発行（約一三〇九名登載）、六〇周年には賛助会としてジャンゲルジム設置助成、六五周年にはテント一張寄贈、七〇周年には賛助会として体育館舞台緞帳購入助成、第二回同窓会名簿発行六二回生まで（約一八〇〇名登載）七五周年には、卒業生台帳からの引き写しという大仕事により、同窓会名簿七五回生まで（一万一六九二名登載）八〇〇部を発行しました。卒業生台帳は持ち出し禁止で校長室でしか見せていただけませんでした。その上、コピーも許されませんでしたから、大村昭夫氏と私と二人で手書きで一七七〇〇名に及ぶ同窓生の名前を書き出したのでした。この努力により以後の同窓会活動の基盤となる名簿を発行することができたのでした。

八〇周年には「故きを温ねて」を岩下会長の執筆監修で、「第三荏原から東大原へ」の歴史を辿った貴重な文書を発行いたしました。また「陶芸釜」を寄贈いたしました。

一九九六年、平成十一年には校門脇に「同

窓会掲示板」を設置、以後PRに努めています。

同窓会報は昭和三六年代にタブロイド版で二年ばかり発行されましたが、一九九九年、平成十一年に再興され、以後今日まで途切れることなく、紙面益々充実して、昨年度は二千部を送りました。

この創刊号からの会報は私が二部保存しておりましたので、今回の同窓会文庫の設立を記念して一部製本をして寄贈いたしました、学校の図書室内にありますからご覧になつてください。

平成二一年度から一三回生の私が会長を委任され、各回の同窓生が評議員、理事として活躍するようになりました。私はかねがね会長は一期二年で交代して、新しい息吹を吹き込んで運営をすることが良いと考えていました。ですから二三年度は「若い世代の会長を」と願いましたが、諸般の事情でもう一期引き受けることになりました。どうぞよろしくご指導ご協力をお願いいたします。

同窓会は、単なるお楽しみ会ではありません。日本中に、いや世界中に広がっている同窓生一万二〇〇〇名の方々と、いかにして、母校という核を中心に心を通い合わせるかが大きな課題です。

母校訪問は卒業以来初めてという同窓生の何人かを母校にお連れし、同期の方をご紹介したりしています。母校を訪問できなくても、同窓会のホームページをご覧になり、インターネットでお便りを下さる方もいらっしゃいます。

各界に活躍されている名士も大勢いらっしゃいます。そのお名前をここに列挙したいのですが、同窓会は、「政治・宗教・思想について中立を守ります」としていただきますから、諸般の事情で差し控えさせていただきます。

同窓会活動にご理解いただき、たくさんの方々からご芳志をいただいています。

同窓会ではこのお志を生かして、二二年度は母校に「テント」を寄贈いたしました。今年度は母校に児童用図書を寄贈したいと考え、学校と打ち合わせながら実行に移しています。

栄えある母校の歴史に、同窓会がなんらかの協力が出来よう、努力してまいります。

教育は学校と家庭と地域の協力によって成立します。

愛する母校の後輩たちが、健やかに成長できるように、同窓会は協力してまいります。

一万二千名に及ぶ同窓生の総力を上げて、母校の栄えある歴史を支えてまいります。

同窓生が、折に触れ親しみあって、創立八四年の母校の一員としての

自覚を持って生ききたいと願っています。

人は生きてやがて死にます。このたった一回の人生の中で、小学校時代に思いを馳せ、何らかの寄与が出来るとしたら、どんなに幸せなことでしょう。



歓談し記念撮影をする同窓生たち。卒業以来初めての再会の人も。



